

農作物病害虫発生現況情報（7月） りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における初発は例年よりやや遅い6月第3半旬となり、発病葉率は6月第6半旬まで平年より低く推移したが、7月第1半旬以降に増加した（図1）。
- (2) 7月後半の巡回調査でのふじの発生圃地率は32.3%（平年44.2%）で平年よりやや低かった（図2）。また、発生度は8.9（平年15.3）で平年よりやや低かった（図3）。

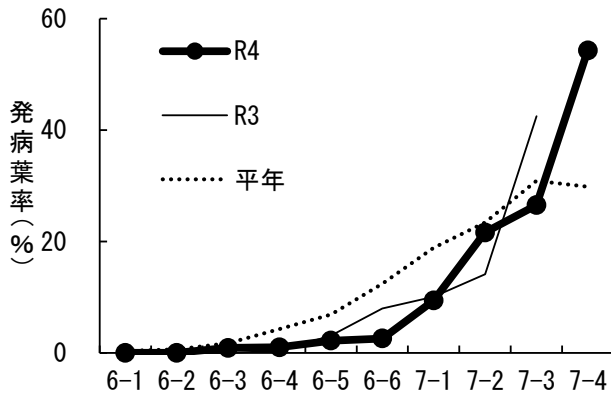


図1 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（月-半旬、スターキングデリシャス、新梢葉）

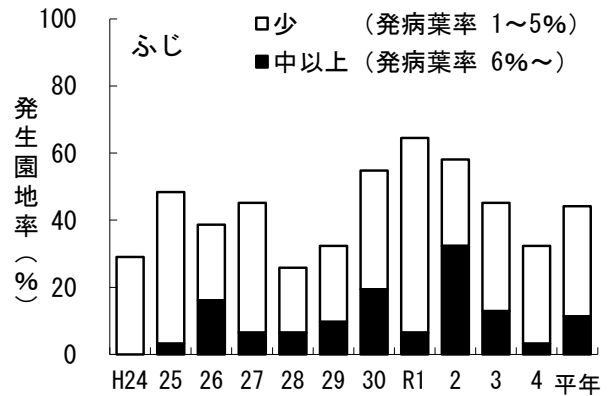


図2 斑点落葉病の発生圃地率の年次推移（ふじ、7月後半、徒長枝上位10葉）

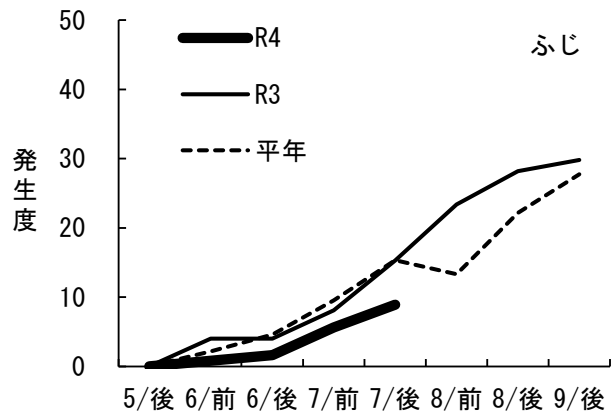
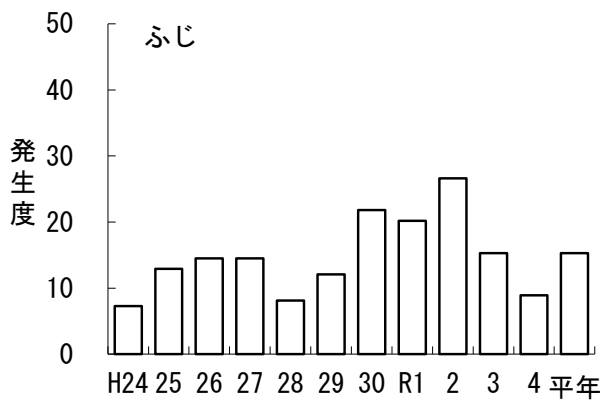


図3 斑点落葉病の発生度（ふじ、左図：7月後半の年次推移、右図：時期別の推移）

※1 「発生度」 = (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査圃地数 × 4)、A: 発病葉率 21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の圃地数

※2 5月後半は果叢葉、6月前半~7月前半は新梢葉全葉、7月後半以降は徒長枝先端10葉による調査。

2 黒星病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃地率は12.9%（平年8.7%）で平年よりやや高かった（図4）。
- (2) 地域別では、県中部で発生が確認された（図5）。

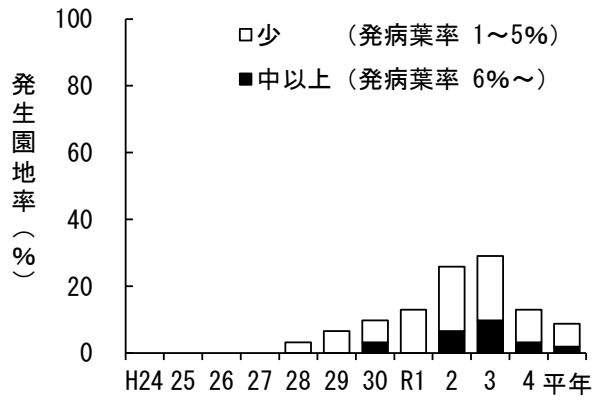


図4 黒星病の発生園地率の年次推移 (7月後半、徒長枝葉)

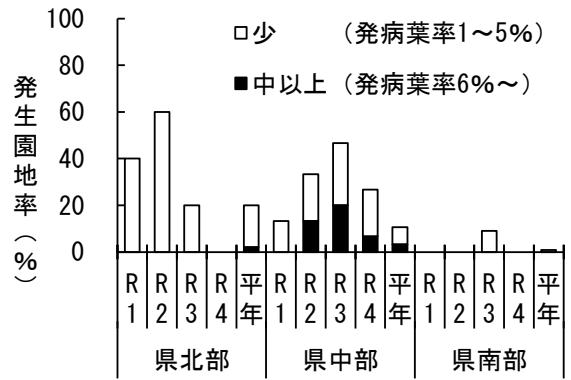


図5 黒星病の地域別発生園地率 (7月後半、徒長枝葉)

3 褐斑病

- (1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における果叢葉における初発は例年より早い6月第1半旬となった。発病葉率は平年より高く推移した (図6)。
- (2) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は9.7% (平年7.1%) で平年よりやや高かった (図7)。
- (3) 地域別では、県中部及び県南部で発生が確認された (図8)。

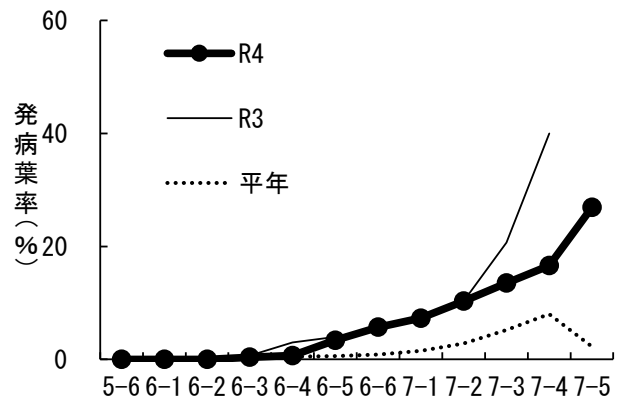


図6 基準圃場における褐斑病の発病葉率の推移 (月-半旬、ふじ、新梢葉)

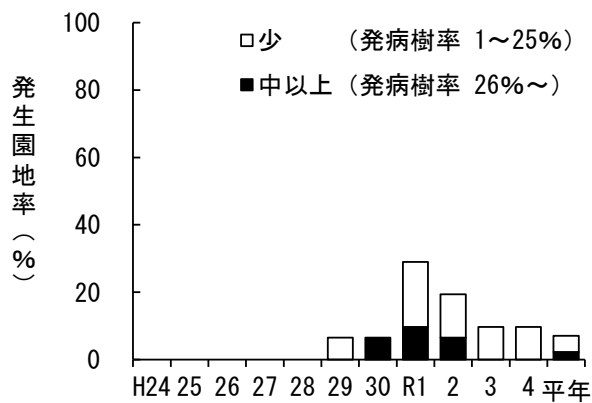


図7 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7月後半)

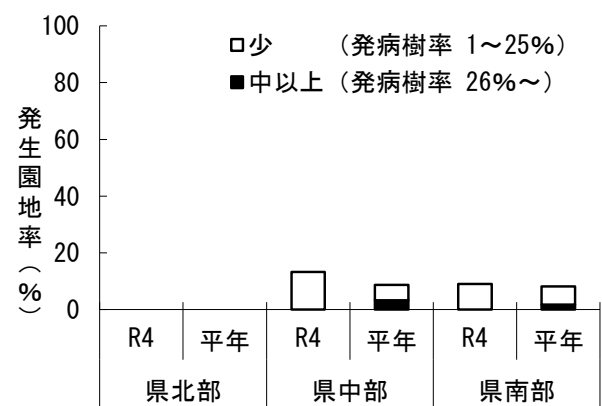


図8 褐斑病の地域別発生園地率 (7月後半)

4 キンモンホソガ

(1) 7月後半の巡回調査でのキンモンホソガ第2世代の発生園地率は9.7% (平年6.1%) で、平年よりやや高かった (図9)。

5 ギンモンハモグリガ

(1) 7月後半の巡回調査でのギンモンハモグリガ第3世代の発生は確認されなかった (平年17.7%、図10)。

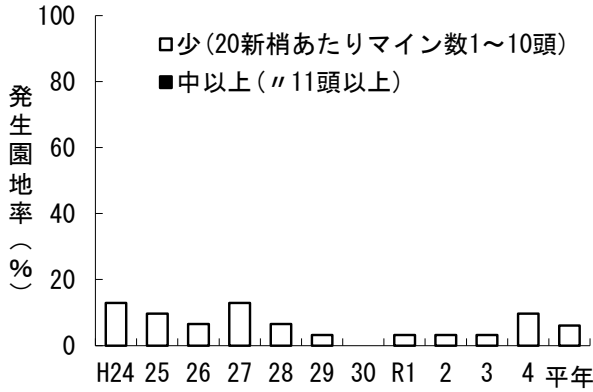


図9 キンモンホソガ第2世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

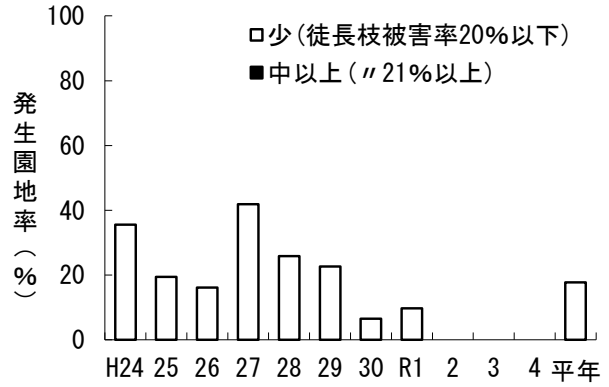


図10 ギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

6 リンゴハダニ

(1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は目通り51.6% (平年19.0%)、樹上部37.9% (平年19.2%) で、ともに平年より高かった。また、発生程度が中以上は目通り19.4% (平年4.5%)、樹上部17.2% (平年7.0%) で、ともに平年より高かった (図11)。

(2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、6月後半以降、平年より高く推移している (図12)。

(3) 目通りの地域別発生園地率は、すべての地域で発生程度の中以上の園地がみられた (図13)。

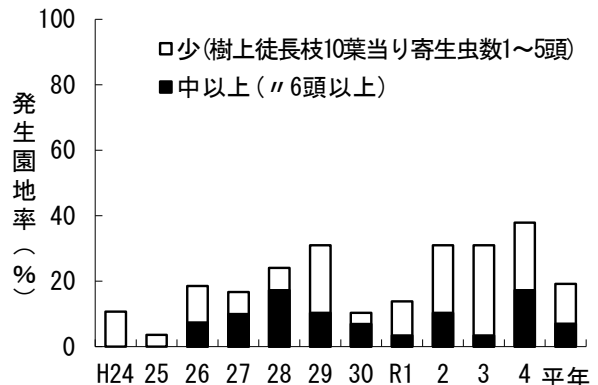
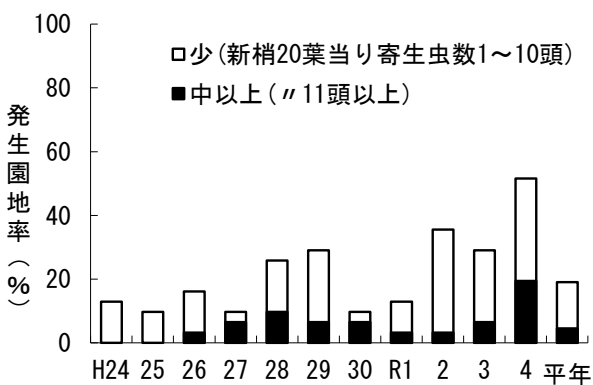


図11 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半、左：目通り、右：樹上部)

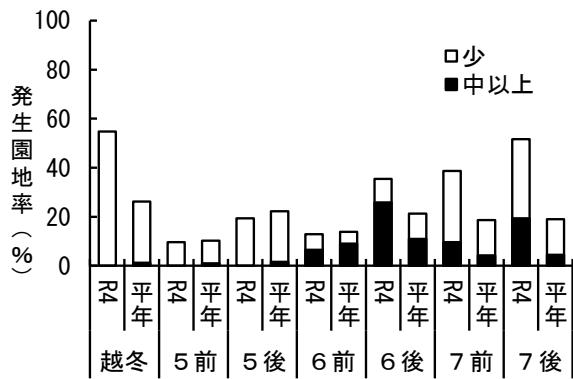


図12 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

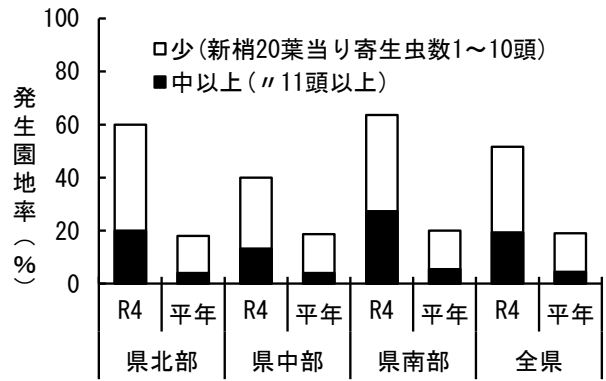


図13 リンゴハダニの地域別発生園地率 (7月後半, 目通り)

7 ナミハダニ

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通りで 35.5% (平年 42.0%)、樹上部 37.9% (平年 35.5%) で、ともに平年並であった。また、発生程度が中以上は目通り 16.1% (平年 14.3%)、樹上部 13.8% (平年 13.2%) で、ともに平年並であった (図14)。
- (2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、平年並に推移している (図15)。
- (3) 目通りの地域別発生園地率は、県南部で発生程度の高い園地が多かった (図16)。

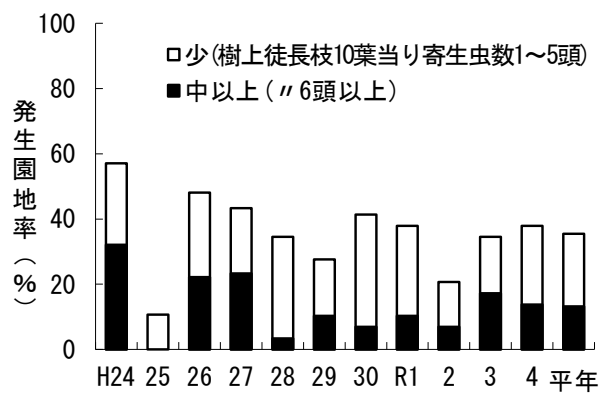
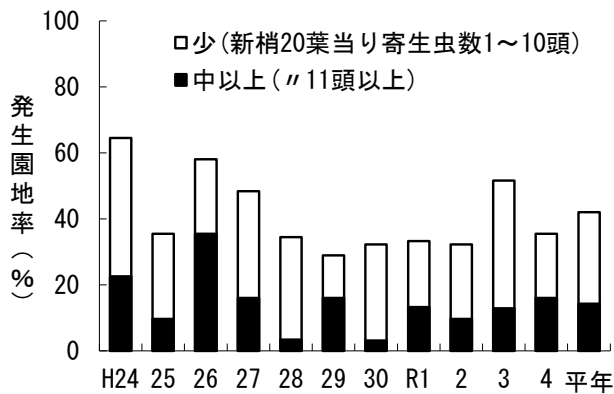


図14 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半, 左: 目通り, 右: 樹上部)

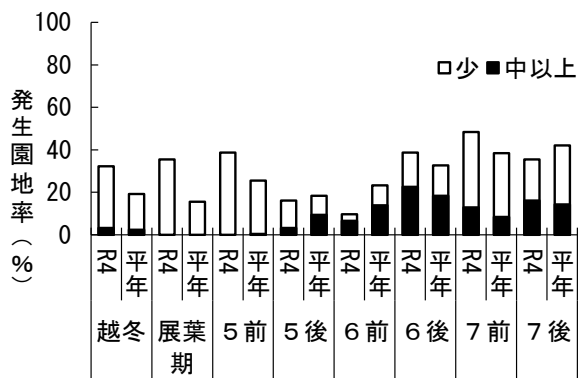


図15 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

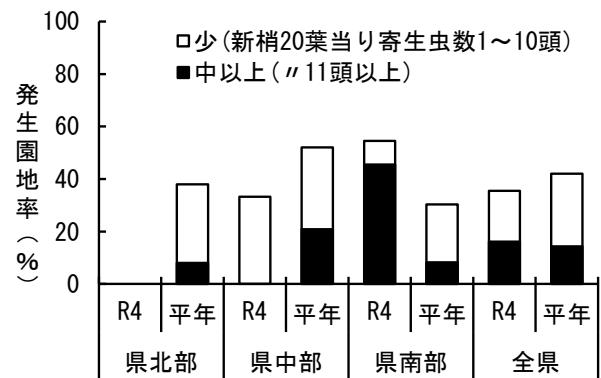


図16 ナミハダニの地域別発生園地率 (7月後半, 目通り)

8 シンクイムシ類

(1) 7月後半の巡回調査でのシンクイムシ類の被害果は確認されなかった (平年0.3%、図17)。

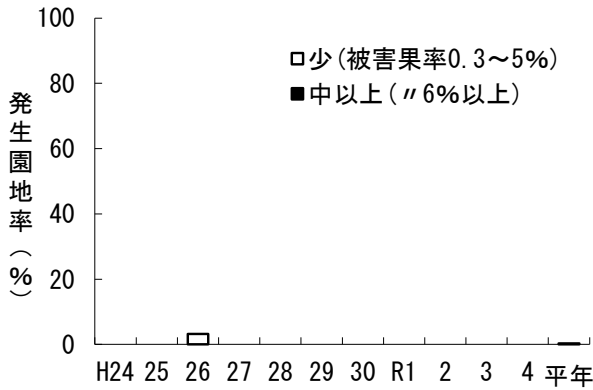


図17 シンクイムシ類の発生園地率の年次推移 (7月後半)

9 果樹カメムシ類

(1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は32.3% (平年33.7%) で、平年並だった (図18)。

(2) 被害果の時期別発生園地率は、7月前半までは平年より高く推移したが、その後、平年並に推移している (図19)。

(3) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃、現地で、ともに平年より低く推移している (図20、図21)。

(4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、平年より低く推移している (図22)。

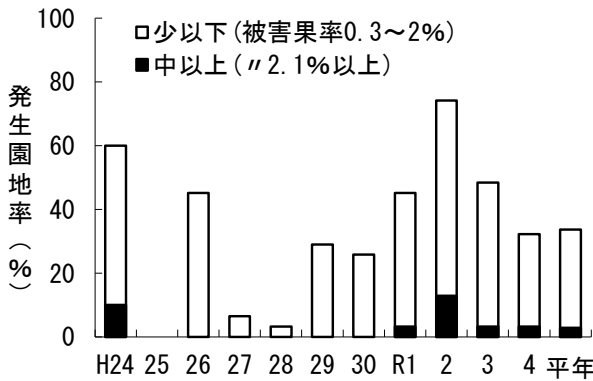


図18 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移 (7月後半、ふじ)

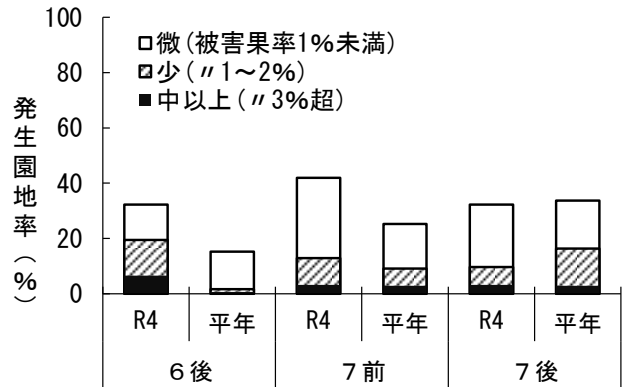


図19 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移 (ふじ)

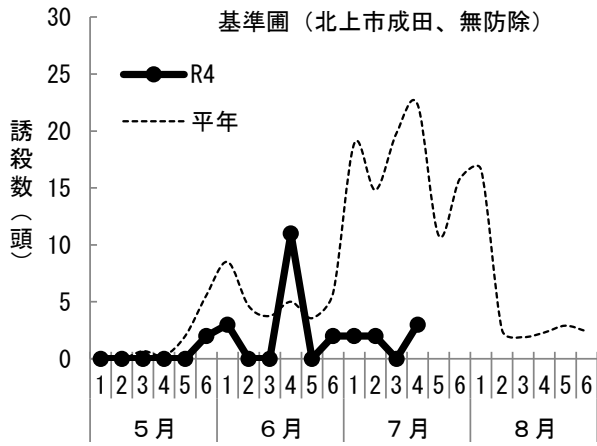


図20 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

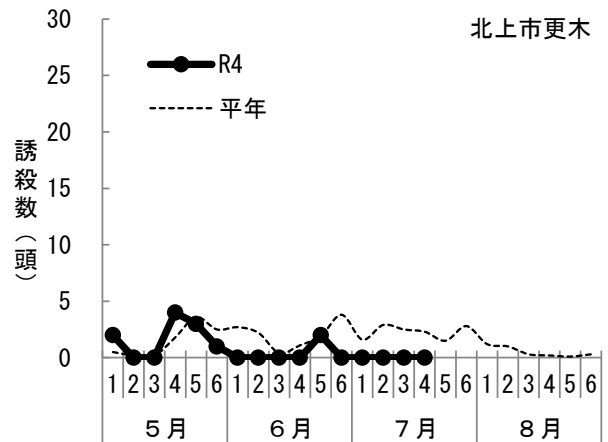
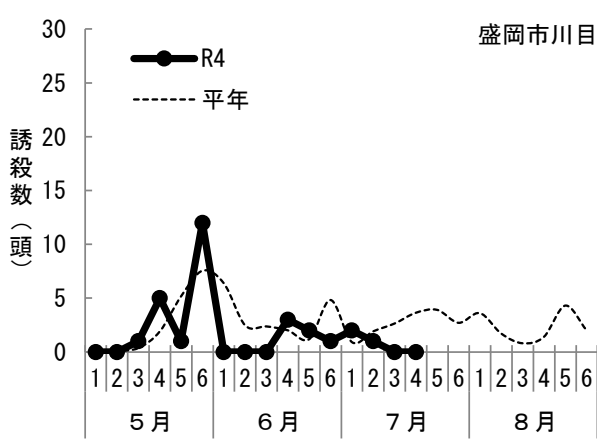


図21 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況
(左：盛岡市川目、右：北上市更木)

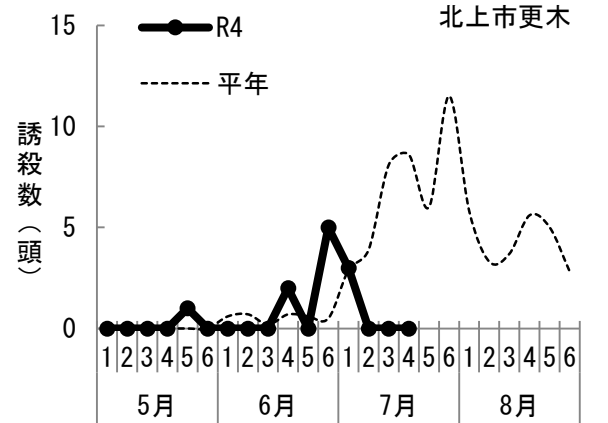
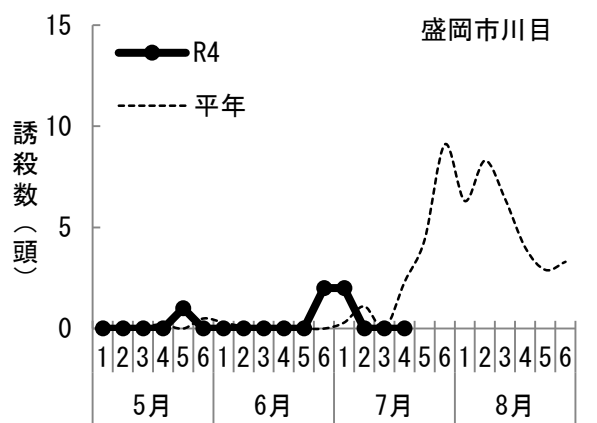


図22 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況
(左：盛岡市川目、右：北上市更木)